



吉田小学校の アントレプレナーシップ教育

Entrepreneurship Education at Yoshida Elementary School



アントレプレナーシップ教育とは



様々な社会変化の中で、 主体性をもって課題に挑む人材を育成する教育

アントレプレナーシップとは、起業家（アントレプレナー：entrepreneur）としての状態や能力（シップ：ship）を意味した合成語です。

グローバル化の進展やICTやAIなどの技術進歩の加速によって、社会・経済・環境など様々な分野で前例のない急激な変化が起こっています。未来は不確実であり、予測することが困難です。このような社会において、どのように生きるかを考え、実行する力を習得することがこれまで以上に必要になってきています。この力は、決して起業家だけに必要な技量ではなく、すべての子どもたちに必要な力といえます。

アントレプレナーシップ教育は、自ら社会課題を見付け、課題解決に向かって挑戦したり、他者との協働により解決策を探究したりするための知識・技能・方略・態度を学ぶ教育であり、起業家を育成するためのだけの教育とは異なります。

吉田小学校は、令和6～7年度の2年間、新潟県教育委員会の「アントレプレナーシップ教育推進モデル校」に指定されました。生活科や総合的な学習の時間を中心に、子どもたちのささやかな夢や願いを大切にした教育活動を展開しています。小規模校の利点を生かし、吉田地域の人やモノからホンモノを学び、失敗を恐れず主体性をもって課題に挑む吉田っ子の育成を行っています。



今まで取り組んでいた吉田小の特色ある教育活動を アントレプレナーシップ教育の視点から整理

全校 26 名の小規模校である吉田小学校。少人数の利点を生かして、フットワークの軽い特色ある教育活動を展開しています。今まで当校が取り組んでいた特色ある教育活動を、アントレプレナーシップ教育の視点から整理して、「吉田小学校アントレプレナーシップ教育年間指導計画」を作成しました。

吉田小学校が取り組んでいた特色ある教育活動

- 地域住民や保護者の協力を得て学ぶ体験活動
米づくり、野菜づくり、サツマイモ(焼き芋)、収穫祭、クラブ活動
クロスカントリー、地区民スキー大会、特設スキー部・外部指導者との連携
- 少人数の強みを生かした教育活動
個に応じたきめ細かな学習、機動性を発揮した体験活動
- 社会性を育むためのあすなろ班活動、鏡島小との交流
あすなろ太鼓、駅伝大会、合同遠足等、合同修学旅行
- 吉田中学校区による小中連携・小中一貫教育
あいさつ運動、メディア講演会、俳句教室、陸上・スキー交流、YOSHIDA 祭
- 吉田公民館との連携
子どもお芋屋さん、通学合宿、ちんころづくり

生活や総合的な学習の時間をはじめ、学校行事などの年間指導計画にアントレプレナーシップ教育を位置付けました。

吉田小学校 アントレプレナーシップ教育 年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
低学年	願いの洗い出し	栽培作物の選定	苗を買いに行こう	畑の先生から学ぶ	栽培活動	パーティー準備	カレーパーティー	収穫・乾燥作業	栽培活動のまとめ	きな粉・アンコ試作	ポップコーンづくり	大収穫祭(アントレプレナーシップ教育フェスティバル)	活動のふりかえり	吉田小学校アントレプレナーシップ教育リーフレット作成	次年度の計画立案
中学年	願いの洗い出し	ホテルの生態学習	子どもお芋屋学習	ホテル観賞会の準備	ホテル観賞会開催	ホテルリーフレット	全校稲刈り運営	芋ほり焼芋大会準備	全校芋ほり大会運営	全校焼き芋大会運営	大学芋試作&準備	干し芋づくり	雪まつり販売準備	十日町雪まつりに出店	
高学年	願いの洗い出し	米の栽培方法を学ぶ	起業について学ぶ	会社を立ち上げよう	販売戦略を練ろう	吉田祭の計画を練る	市の課題に立向う人	大収穫祭の計画	全校稲刈り運営	吉田祭に出店	大収穫祭準備	収穫祭の振り返り	雪まつり販売準備		

年度始めに各担任が、年間指導計画をもとに今年1年間の活動を構想しますが、子どもたちのささやかな願いや夢をもとに、計画は随時修正・補充し、子どもたちの主体的な課題解決の場を設定しています。

吉田小が大切にしている視点

アントレプレナーシップ教育を展開していく上で、吉田小学校が大切にしている4つの視点があります。

出発点は子どもの「ささやかな願いや夢」から

学習活動が始める前に、今年度の活動をどのように進めていくかについて、子どもたちと一緒に話し合う場を設定しています。その際、子どもたちの「こうしたい」「やってみよう」を大切に、担任と子どもたちで合意形成しながら活動計画を作成しています。

話し合いのポイントは「制限」を加えること。「〇時間でできること」「財源は〇円まで」等、ある程度の制約があることで、話し合いが活性化し、活動の本質に迫ることが期待できます。



失敗体験を生かす学びづくり

活動をする中で起こってしまった問題点や、昨年度うまくいかなかったことなどを振り返り、「課題をどう克服するか」「よりうまくいく方法はないか」等と改善点を話し合い、新たな活動のめあてや目標を定めています。また、実際にシミュレーション（試しの活動）を行い、問題点を洗い出すことで、本番の活動に生かせるようにしています。



地域の人・モノからホンモノを学ぶ

米づくりの先生、畑の専門家、ちんころ名人…。吉田地域には「その道のプロ」が大勢いらっしゃいます。子どもたちは地域のプロから直接学ぶことで、ホンモノを経験することができます。

また、学校のすぐ隣には、ドジョウやホタル、ヌマエビなど多くの希少生物が生息する貝沢川。雄大な河岸段丘を見下ろす、新潟県唯一のFIS公認コースである吉田クロスカントリー競技場など、吉田地域全体を学びの場とすることで、充実した学習活動を行うことができます。

これら豊かな人材や環境こそが、吉田地域で教育を営む最大の強みと言えます。



誰かの役に立つ・新たな価値を生み出す

活動後に、保護者や地域の方から「ありがとう」「とても楽しかったよ」と直接声をかけていただく機会が増えてきました。子どもたちも教職員も、自分たちの活動が「地域の方に喜んでもらえた」「誰かの役に立った」と肌で実感することができ、それが、達成感や充実感、次へのエネルギー源となっています。

実際、今年度の大収穫祭は、「お世話になった保護者や地域の方に感謝の気持ちを込めて、『おもてなし』をしたい」という子どもたちの願いが活動のエネルギーとなり、計画・準備が行われました。

このような循環を積み重ねていくことで、自己肯定感やふるさと吉田に対する郷土愛を育むと、私たちは考えています。今後も、「学校から地域を元気にする」「学校から地域の未来を創造する」そんな想いを込めて、活動を進めていきます。



取組をとおして

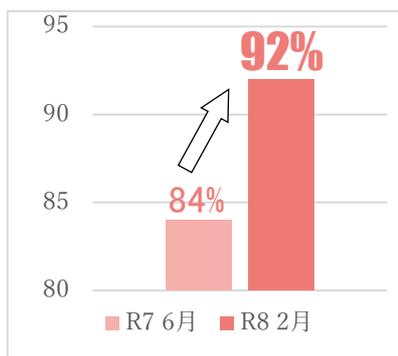


子ども

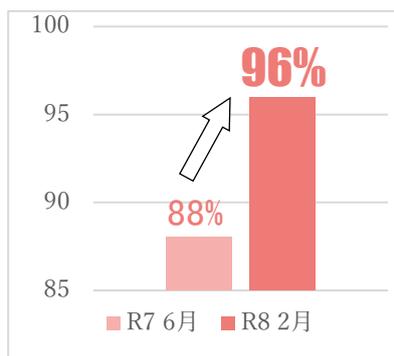
アントレの取組をとおして、様々な力を付けてきました

<児童アンケートから>

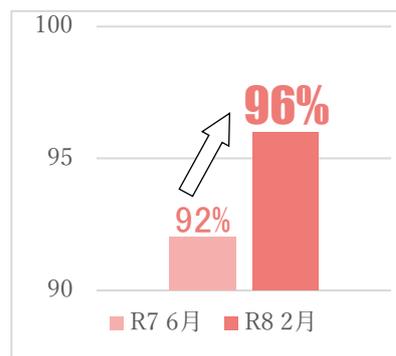
正解のない問いに対して積極的に自分のアイデアを出そうとしている



先を見通して計画的に行動することができる



うまくいかなかった時に次の方法やアイデアを考えようとする



課題解決に向かって、チームで力を合わせて取り組むことができる → **100%**

何か物事を進める時に周りの人を巻き込みながら進めようとする → **100%**

人の役に立つ人間になりたいと思う → **100%**

地域や社会をよくするために何かしたいと思う → **96%**

<教師の評価から>

- 「これをやってみたい」「こうするともっとよくなる」などの自分の思いをもって意欲的に活動に取り組む様子が多く見られるようになった。
- 田植えや稲刈り、商品のパッケージデザイン、調理活動など、それぞれの得意なことで活躍できる場ができ、自己有用感が高まった。
- 教師と子どもの対話から始まり、繰り返し活動していく中で、子ども同士の対話が生まれ、関わり合いながら主体的に取り組むことができた。

保護者・地域

取組にご協力くださった保護者・地域の方の声をまとめました

1、2年生はジョブコモン作りの際、一人一人が自分の役割としりこなし、集中して作っていました。作るうちにどんどん上手になり、手際よく行っており感心しました。この作る作業は、という子ども同士のアサインを受け、非常にいい思い出でした。販売はお客様の作られ、楽しく積極的に売り手としていました。自分の手で育て収穫し、人と人と繋がる経験が、貴重な学びの期間とよかったです。

もつた際「楽しいね」と地域の方の言葉が残り、親子、祖父母がのびのびと楽しい時間を過ごし、学校でできる新しい形

※ご記入ありがとうございました。11月22日(金)までに担任にご提出ください。
と感心しました。

昨年の大収穫祭は都合により参加出来ずでしたが、今年初めて参加させて頂き、自身に素直な行事だと実感しました。

特に、子ども一人一人が自分の役割を覚悟を持って取り組んでいることにとても喜びを感じました。大人から指示されて動かされている“つらい”などという様子も全くなく、自分から次はこう、次に何をしようかと考え行動する姿は普段はなかなか見ることがないので、今回参加出来て本当に良かったと思います。また、少ない人数で、数回に亘って、みんなにも地域の方々が少人数の子どもたちのために集まってくれる温かい、改めて昔の良さを実感する機会となりました。この度は大収穫祭に参加させて頂き、本当にありがとうございました。

- 1年間野菜づくりをとおして、大収穫祭というゴールに向かって学年なりにできることをやり遂げていたと感じました。何より収穫を楽しんだり、お客さんを喜ばせるために工夫したりして楽しんで大収穫祭に取り組んでいたと思います。来年はどうしたいか、という目標にもつながっていたので、来年以降も継続してほしいと感じます。
- 地域で夏祭りの出し物をしています。例年は親が、子どもに何を踊らせるか、衣装は、ステージは、等々考えていました。ところが、今年は子どもたち自身が「来年の夏祭りのこども会枠では〇〇を踊りたい！」「みんなで相談した結果、全員で踊るものと、高学年・低学年で踊るものを加えたい！」「立ち位置はこうしよう！」「衣装は…」のような話が子どもたちの間で進んでいて、「こども会のLINEで連絡してほしい」という指示が子どもたちから増えて、「これってアントレプレナーシップ教育の成果では？」と思ったりしました。
- 地域とのつながりの充実や、学校活動のお披露目の機会につながるなど、大変いい取組だと思います。
- 地域の方と一緒に楽しめるイベントなので、これからも続けていただきたいです。

職員

アントレに取り組んでみて、ぶっちゃけどうか聞きました

- 子どもの思いや願いを優先させることでたくさんの教育的効果が得られることを実感した。専門家と関わることで、学びを深めたり、視野を広げたりすることができた。
- 子どもの「やりたい」をどのように引き出すか、どんな言葉掛けをするとよいかなど、考えて実践する力が付いた。
- 子どもたちの思いを大切に活動する意識が育った。
- 私自身の失敗を恐れず、主体性をもって課題に挑む力が付いた。
- 保護者や地域の方から直接お褒めの言葉をいただくことが多かった。私たちにとってもやりがいや自己有用感につながった。
- △ 季節や天候の影響を受けるものが多いため、見通しを十分にもって活動に臨み、計画的に進める必要がある。
- △ 収穫祭などのイベント前は、行事が連続している。負担がないかと言われれば、それなりにある。でも、教師自身も主体的に“愉しむ”ことで、多忙感は軽減される。